



かもめ広場だより VOL. 15

2024年3月発行
一般社団法人横須賀市医師会
在宅医療推進連携拠点「かもめ広場」
〒238-0005 神奈川県横須賀市新港町 1-11
☎ 046-824-6430

「適切な意思決定支援（ACP）」に関する取り組み

横須賀市医師会では、令和4年度に「適切な意思決定支援に関する指針」を作成しました。意思決定支援に際しては医療・ケアチームの連携が重要であると考え、令和5年度は「適切な意思決定支援の推進」を目的とした勉強会を開催しました。

アドバンス・ケア・プランニング (Advance Care Planning) とは、将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、本人を主体に、そのご家族や近い人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援する取り組みのことです。(日本医師会HPより)

● 医師のための在宅医療セミナー

日時： 令和5年11月21日(火) 19:30~21:00

演題： 「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスにおける適切な意思決定支援の実際」
～ 適切な意思決定支援の進め方 ～

講師： 山岸 暁美先生 (慶応義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室(一社)コミュニティヘルス研究機構 機構長・理事長)

参加者： 51名 (医師21、歯科医師3、薬剤師2、介護・福祉職7、看護師10、その他8)

ACPについては、「誰のための、何のためのACPなのか？」が置き去りにされる状況が課題である。この講座では、ACPの手段を目的化してはならないこと、患者家族との信頼関係がベースになることが必須であることが確認され、また、これは特別なことではなく、普段の医療・ケアの関わりのなかで行われるプロセスであることが強調されていた。

● 在宅医療連携ミーティング

日時： 令和6年3月14日(木) 19:30~21:00

テーマ： 「よりよく生きることを支えるために望ましい意思決定支援とは」

内容： ①実践報告

「フロムワン附属診療所並びに中央ブロックにおける意思決定支援への取り組み等について」

佐藤 真紀子 先生 (フロムワン附属診療所 院長)

②パネラー基調報告 (それぞれの立場での取り組みについて)

医師 佐藤 真紀子 先生 (フロムワン附属診療所 院長)

医師 横井 英人 先生 (久里浜横井クリニック 副院長)

ケアマネジャー 玉井 秀直 氏 (こいそなんでも福祉相談室 管理者)

訪問看護師 志戸 ゆかり 氏 (衣病訪問看護ステーション長瀬 管理者)

③意見交換

④講評・コメント 山岸 暁美 先生 (慶応義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室)

参加者： 46名 (医師9、薬剤師3、看護師9、介護・福祉職13、栄養士2、その他10)

山岸先生から「意思決定支援にあたっては、単純明快な絶対はなく、患者本人の意向・家族のことも考慮しながら皆で悩み考える、そのプロセスが大切であることに尽きる」とコメントをいただいた。また、「本日のパネルディスカッションから横須賀の多職種連携が有効に機能しており素晴らしい事である」との好評価を得た。



医師の
ための

在宅医療ハンドブック

在宅医療のはじめ方・すすめ方 Part2 を作成しました！

在宅医療委員会では、令和 5 年度地域在宅医療推進事業の県補助を受けて、平成 28 年度に作成した在宅医療ハンドブックの改訂版『医師のための在宅医療ハンドブック 在宅医療のはじめ方・すすめ方 Part2』を作成しました。

これから在宅医療に取り組む、あるいは、在宅医療をさらに進めようとしている先生のお役に立つことを願うとともに、医師同士の意見や情報交換のきっかけになることを期待しております。

また、横須賀市医師会で実施している臨床研修事業に参加する研修医にも、在宅医療研修の資料として配布しており、横須賀で在宅医療を始める医師が増えることを願っています。

119番通報では、ACPIはリセットされます

ご本人が在宅で看取りを希望していても、家族や親戚などが急変時に慌てて救急車を呼んでしまうと、救急隊は『119番通報があった時点で明らかな死亡以外は心肺蘇生法等必要な処置を実施しての救急搬送』となり、ACPIはリセットされます。

患者さんには「何かあったら在宅医、ケアマネジャー、訪問看護師などに電話をするように」と、日頃から伝えておくことが大切です。リンクパスポートの裏表紙には大きく「私の緊急連絡先」を記載する頁がありますので、積極的にご利用ください。



『医師のための在宅医療ハンドブック 在宅医療のはじめ方・すすめ方 Part2』より一部抜粋

在宅医療担当理事のご紹介

野村内科クリニック 院長 佐々木 純久 先生

令和 5 年 6 月より在宅医療担当理事となりました。

いつも診診連携、病診連携、多職種連携など皆様にお世話になり、ありがとうございます。

横須賀市でも人口減少、高齢化は着々と進行しており、外来通院をしてこられた患者さんが ADL の低下で通院が困難になり、在宅訪問を開始するケースも増えています。また、癌の終末期などで病院から退院してくる患者さんを地域で看取りまで支えることも多くなりました。患者さんや家族に満足してもらえる在宅医療を継続していくには、医師や訪問看護師だけでなく、歯科医師や薬剤師はもとより介護保険の枠組みのケアマネジャーやヘルパーさんなど、多職種との密接な連携が不可欠です。面と向かって医師には漏らしてくれない心のうちの本音を、看護師さんやケアマネさんが聞き取ってくれることを経験しています。

横須賀市医師会では一昨年から「人生の最終段階における適切な意思決定支援（ACP）」をテーマとした様々な取り組みを行なってきました。その具体的な成果の一つとして「よこすかリンクパスポート」の中の患者さん向け意思決定支援シート「あなたの意思を伝える」があります。新たに在宅訪問診療を始める際に、ぜひ活用いただければと思います。（「よこすかリンクパスポート」につきましても、かちめ広場にご連絡ください）

ACP を一つのきっかけとして、患者さんがどういった人生の最期を過ごしたいのか、多職種で連携をとりながら議論を重ねて行ければいいと考えています。

